

令和3年度 第1回府中町総合教育会議 議事録（要旨）

日 時：令和3年10月29日（金） 15時30分～17時00分

場 所：安芸府中商工センター 2階多目的ホール

出席者：町長 佐藤 信治、教育長 新田 憲章、教育委員 坂田 眞澄、
教育委員 上之園 公子、教育委員 神原 謙治、教育委員 松本 真奈美

○開 会

○協議事項

- (1) 教育振興基本計画の進捗について
- (2) 学校におけるICT活用の現状について

○議事内容

(1) 教育振興基本計画の進捗について 《資料1》

- 資料1に沿って教育長より説明
- 町長
資料1の8ページ「志を持ち未来へ挑戦する児童生徒の育成」の部分で、R2年度は「全国学力・学習状況調査」が未実施となっているが、R3年度の調査結果はどうだったのか。
- 教育長
R3年度の調査結果については、追加資料3のとおり。小学校は国語・算数ともに県内2位、中学校は国語が3位、数学が7位となっている。数学では与えられたデータから中央値を求める問題やデータの傾向を的確に捉えて判断の理由を数学的表現を用いて説明する問題に課題があった。今後の改善の取り組みとしては、10月に行った「府中町学びの変革推進協議会」において、各校の研究主任が自分の学校の課題をどのように分析して、今後授業の中にどのように活かすかを交流し、それぞれの学年で重点的に授業改善を行う計画を立てている。1月の協議会では、取り組んだ内容を再度交流し、今後も組織的に校内研修を進めていけるよう指導助言していく。
- 町長
調査結果の1位と2位は、比較的小規模自治体であり、大規模自治体はトップグループに入っていないようである。その要因と調査のそういった傾向を踏まえて、児童・生徒がよりはばたくような教育にしていくにはどういった点を留意すべきなのか。
- 教育長
特に上位になっているところは、人口規模の少ないところが多く、調査に向けて過去問に当たる等こまめな指導を行っていることが結果に表れているのではないかと。この調査は、調査を行うことにより教師が授業改善を行い、より効果的な授業の展開をしていくことに目標が置かれている。府中町では長年結果を分析し、それを全校で共有し、授業の展開の中で活かしていくという動きを目指している。その成果として大規模校でありながら、県内でもいい成績を挙げられていると考えている。
- 教育委員
・ 府中町は、学校数は少ないが、子供の人数は多く、様々な生徒がいる中で、成績を上げ

ていくのが難しい。その中で、調査結果を活かして日々の授業の中で高めていくという取り組みを行っており、試験対策というより、しっかり力がついているということなのではないかと思う。

- ・ 30%未満の回答率の生徒に対して、ICTなどを活用しつつ、人数が多い中で個に応じた指導をどのように行っていくかというところも考えていかなければならない。

- 町長

調査結果を見ると上位にあるところの方が、学力水準が高いと思ってしまうが、そうではないということもしっかり広報する必要がある。全国での実施で経費も掛かっているので、子供たちにとって役立つ実効性のあるものとするために国への要望などあるか。

- 教育長

平均値だけで語られがちだが、その中には分散がある。30%未満の児童・生徒の割合を把握し、何ができなくて何が足りないのかを分析して、解決していこうとしている。子供たちの学習における困り感を教師が把握して、それを反映していくために、大規模校での学習指導を応援してくれる人材や加配の要望をお願いしたい。

- 町長

資料1の9ページで、評価指標となっている「子供と向き合う時間が確保されている」と感じる教員の割合について、R2年度実績値が中学校では目標値を下回っている。その要因と、解決していくために現在どのような取り組みを行っているのか。

- 教育長

H29年度からR2年度までの実績値と勤務時間を追加資料1に示している。小学校と比べて中学校ではクラブ活動や高校受験の進路指導等、子供と向き合う満足感というより事務的作業とスケジュールが込み合ってくるという状況がある。R2年度の1回目調査の5月頃は休校しており、特に中学校ではクラブ活動ができないことが大きな要因と考えられる。教職員の組織的な意識の改革が重要であり、管理職でアンケートを取るなど教職員に寄り添い、日頃持っている悩みを聞きながら、業務に充実感をもって取り組んでいる。

- 町長

「子供と向き合っている時間が多ければ優れている」という評価ではないと思うが、時間が必要な部分もあると思う。業務改善の事業や校務システムの導入により時間を確保していく一方で、働き方改革の中で、長時間労働にならないよう何らかの基準を作っているのか。

- 教育長

時間外労働は月45時間以内という目標をもってやっているが、学期の初めなど集中的に作業をしなければならないこともある。管理職の教職員やサポーターの協力で教師に負担がないよう、効率的にできるよう取り組んでいる。

- 町長

参考資料「教育振興基本計画」の9ページで、中学校卒業時の英検3級以上の取得率を掲げているが、R1年度以降の結果はどうか。

- 教育長

R2年度までの結果を追加資料2に示している。R2年度の取得率低下は、臨時休業期と重なり、受検機会が前年より1回少なかったことが要因と考えられる。H28～R1年度までの傾向を見ると、取得率は着実に上昇している。検定料の助成をH27年度から中学

校2・3年生を対象に実施しており、H30年度からは中学校1年生にも拡大し、取得率の向上はその成果の一つと考えている。

- 町長

今の社会で外国語に接するのは重要であり、子供たちが世界に飛び出してはばたくための基盤を府中町で作ってあげられるようにしていきたい。また、町内唯一の高等学校である、県立安芸府中高校の国際科と府中町の英語に力を入れている部分がつながって、府中町で学ぶと英語が得意になるというような評価が受けられるようになると嬉しいという思いがある。教育行政でどう反映していくか教育委員の皆様で是非ご検討いただきたい。

(2) 学校におけるICT活用の現状について 《資料2》

- 資料2に沿って教育長より説明

- 町長

3か年の計画スケジュールで順次段階的に前に進めていくということだが、進捗状況のチェックや到達度の測定についてはどのようにしているのか。

- 教育長

学校管理職の理解が重要である。校長会・教頭会でICT研修を行い、校長や教頭が校内巡視の際にアドバイスができるよう取り組んでいる。また、ICTに関して苦手な教職員に対してフォローできるよう、各校の担当教員を集めた連絡会をし、支援策も検討している。

- 町長

ICTの活用によって便利になり多様な教育の仕方が進んでいくと思うが、一方で危険も同時に潜んでいると思う。学校現場ではどういった議論がされているのか。

- 教育長

情報の中で他者を傷つけるということが一番大きな問題であり、町田市ではチャット機能を使ったいじめが原因で児童が亡くなった事例がある。府中町では、システム的にチャットが使用できないようにしており、学習の道具以外としては活用しないということが大事であると考えている。健康面の問題についても注意しながら進めていきたい。

- 教育委員

・ 10月に小学校を訪問したが、半年経っていない中で学年に応じてどの子も上手く活用をしており、ICT研修によって全教師が自信を持ってICT機器を使って授業に取り組んでいると感じた。画面を動かすことによって更に興味を持って探求していくことができ、子供たちの学習意欲を高めることは間違いないと思う。さらに、教師の負担が少なくなるので、子供と向き合う時間が増えていき、学力向上や働き方改革につながると思う。

・ 子供たちにとっては学習のツールの一つとして普通のものとしてすでに溶け込んでいる。ICTを活用しながら、子供が自分に合った学び方を選んでいくという姿が見られ、個別最適化が子供視点で行われている。また、教師同士が協力し合い、校内で研修会を行う等しており、放課後の時間は潰れているにもかかわらず、子供と向き合う時間の確保の満足度が上がっているということは、充実しているということだと思う。授業の中でもタブレットを通じて一人一人の状況が把握できるので、しっかり一人一人と向き合っている感覚につながっているのではないかと思う。ただし、自主研修をずっと積み重ねていくと長時間労働にもなるので、人員配置についても考えていかなければならないと思う。

- ・ ICT 活用の危険性については、家庭の協力が不可欠であると思う。例えば、休日に MEET（テレビ会議機能）と一緒に宿題をすることができるが、グループ分けなどでいじめにつながらないかというような懸念がある。家庭でのルール作りなどの協力が必要だと思う。また、児童同士が自発的にできていない人をサポートするなど、取り残されないという意味の使い方も期待できる。3D やアニメーションによって子供の想像力が豊かになり、ゲームクリエイター等将来のなりたい仕事の幅が広がったのではないかと感じている。
- ・ 子供たちがいきいきと操作をしており、大人が思うより今の時代の環境にいち早く対応して取り組み、いい形で学びを進めている。子供たちの将来とこれからの未来に希望を持つことができると感じた。

○閉会